

映画で学ぶ アサーティブコミュニケーション / 第2回

『マイ・インターン』授業ガイド

相手の話を聴く —— 「まず聴く。それから伝える。」

教員用・指導資料（対象：12歳以上／小学校高学年～中学生）

本資料はAI（Claude / Anthropic）で作成しています。授業でのご利用前に事実関係をご確認ください。専門家の監修ではありません。授業での使用可否・場面の選択・学年の適否は、担当の先生が最終判断してください。

1 授業の概要

テーマ	アサーティブの「相手も大切」を行動にする＝傾聴（相手の話を聴く力）
教材映画	『マイ・インターン』（原題 The Intern／2015年・アメリカ／監督：ナンシー・マイヤーズ）
対象	12歳以上（小学校高学年～中学生）。日本の映倫レイティングはG（全年齢）
時間	標準90分（45分×2も可）。全編視聴・厳選クリップ・あらすじ紹介のいずれの構成も選べます
中心概念	傾聴の4つのコツ／「話す力」より「聴く力」／すぐ助言せず、まず受けとめる
ねらい	「聴くこと」が相手を大切にするメッセージであると理解し、4つのコツを自分の会話で試せるようにする
準備物	生徒用ワークシート（別PDF）／筆記用具／ペアワークができる座席

2 内容への配慮

i レイティングと視聴方法

本作は日本で映倫G（全年齢）で、暴力的・刺激的な描写はほぼありません。ただし働く大人の物語で、夫婦・家庭の悩み（配偶者の不誠実さを示唆する場面など）や仕事のストレスといった、やや大人向けの話題が含まれます。学級の実態に応じて次を選んでください。

- 全編視聴型：121分。2コマに分ける、または鑑賞は事前・宿題視聴にして授業はワーク中心にする。
- 厳選クリップ型：ベンが「聴く」場面（新人としての初日、ジュールズの相談に乗る場面など）を選んで提示する。
- あらすじ紹介型：本ガイド・解説ノートのあらすじで物語を伝え、傾聴の学習を行う。

📄 著作権について

- 授業での上映（複数クラス・全校など）には、教育機関向けの上映権・配信の権利処理が必要になる場合があります。個人向けの配信契約では授業上映が認められないことがあるため、事前にご確認ください。
- 本教材の文章はすべてオリジナルです。ポスター・俳優写真・場面写真は使用していません。セリフ引用は短く、出典（作品名）を明記してください。

3 傾聴の基礎（先生用の予備知識）

「話す力」より「聴く力」

第1回で学んだアサーティブ＝「自分も大切、相手も大切」。この「**相手も大切**」を具体的な行動にするのが傾聴です。主人公ベンは多くを語らず、よく聴くことで信頼を得ていきます。

💡 やりがちな3つのつまづき

①話し終わる前に答えを言う ②すぐ「こうすべき」と助言する ③自分の話にすり替える。子どもに「ベンはこの3つをしない」と対比で示すと伝わります。

傾聴の4つのコツ（板書用）

① 体を向ける・目を見る

「聴いているよ」を態度で示す。

② 最後まで聴く

さえぎらない。沈黙を待てる。

③ うなづく・あいづち

「うん」「そうなんだ」で促す。

④ 質問で深める

「どう感じたの？」で気持ちを引き出す。

アサーティブとのつながり

聴くことは受け身ではありません。**相手を尊重したうえで、自分の考えも伝える**——その土台になるのが傾聴です。「よく聴いてから、わたしメッセージ（私は～と思う）で返す」という流れを意識させます。

🎯 この授業の到達目標

4つのコツを1つ以上、自分の言葉で説明でき、ペアワークで実際に使ってみることができる。

4 90分授業の流れ（時間割）

※あらすじ紹介型の目安。クリップ／全編視聴を使う場合は該当箇所を差し替えてください。

時間	ながれ	先生の動き・発問
0-10分	導入	「話を聴いてもらえてうれしかった経験は？」を数人に。『よい聞き手』とはどんな人かを引き出す。
10-22分	3つのつまずき	「話を聴くのが下手な人」の例を出し合い、①②③のつまずきに整理する。
22-35分	4つのコツ	傾聴の4コツを板書。先生が「悪い聴き方／よい聴き方」を実演して見せると効果的。
35-58分	物語にふれる (あらすじ／クリップ)	ベンの人物像と、彼が「聴く」ことで信頼を得ていく流れを紹介。「ベンはどのコツを使っていた？」と問う。
58-72分	ペアワーク	片方が1分話し、もう片方は4コツで聴く→交代。ワークシートに感想を記入。
72-85分	観察シート記入	心に残った場面と、自分が試したいコツを書く。
85-90分	まとめ	板書に「まず聴く。それから伝える。」下記のまとめ言葉で締める。

最後に先生が伝える言葉（例）

🌱 まとめ

聴くことは、受け身でも、がまんでもありません。「あなたを大切に思っている」という、いちばんやさしいメッセージです。よく聴いてから「わたしは～と思う」と返す——それが、自分も相手も大切にする会話です。

5 映画の背景知識

原題／邦題	The Intern ／ マイ・インターン
製作年・国	2015年・アメリカ。日本公開：2015年10月10日。上映時間：121分。映倫：G
監督・脚本・製作	ナンシー・マイヤーズ（監督・脚本・製作を兼任）
ジャンル	コメディドラマ
舞台	アメリカ・ニューヨークのブルックリン

主なキャストと役柄

- **ロバート・デ・ニーロ（ベン・ウィテカー役）**：70歳。電話帳制作会社に40年勤めた元役員。妻に先立たれ、退職後の張り合いを求めて「シニア・インターン」に応募する。
- **アン・ハサウェイ（ジュールズ・オースティン役）**：ファッションのeコマース企業「About the Fit」を約1年半で急成長させた若き創業社長。仕事と家庭の両立に悩む。

🕒 時代の重ね方

ベンの前職「紙の電話帳を作る会社」は、時代とともに需要が消えた象徴。「道具は変わっても、人の話を聴く力は古くならない」というテーマが物語に重ねられています。

※上記の事実は公開情報（映画.com、Wikipedia、シネマトゥデイ等）で確認しています。細部には諸説ある場合があるため、授業前に必要に応じてご確認ください。

6 発問例・見取りのポイント

Q. ベンは、なぜ相手に信頼されるようになったのだろう？

→ 多く語らず、よく見て、よく聴くから。「話す量」ではなく「聴く質」に注目させる。

Q. すぐにアドバイスするのと、まず聴くのとでは、相手の気持ちはどう違う？

→ 「わかってもらえた」という安心感の有無。助言は聴いた後でも遅くない、と気づかせる。

Q. 自分が「話しやすい」と感じる人は、どんな聴き方をしている？

→ 4つのコツと結びつける。身近な経験から一般化させる。

ワークシートの見取り（評価の観点）

- 観察シートで、ベンの行動を**4つのコツのどれかに**結びつけられているか。
- ペアワークの記述で、**聴いてもらった側の気持ち**に触れられているか。
- ふりかえりで、**具体的な場面と試したいコツ**がセットで書けているか。

7 シリーズ全体像

回	映画	学べる力	目安
1	コーダ あいのうた	自分の気持ちを伝える	12歳以上～
2	マイ・インターン	相手の話を聴く	12歳以上～
3	セトウツミ	会話のキャッチボール	中学生～
4	ブレイクファスト・クラブ	相手を決めつけない	高校生～
5～8	タイタンズを忘れない / 42 / リンカーン / アイ・フィール・プリティ！	対立を解決する・説得する・自分を肯定する	中～高

8 参考資料（主な出典）

マイ・インターン 作品情報（映画.com） <https://eiga.com/>

Wikipedia「マイ・インターン」 <https://ja.wikipedia.org/wiki/マイ・インターン>

マイ・インターン 作品情報（シネマトゥデイ）

作品：映画『マイ・インターン』（2015年、監督ナンシー・マイヤーズ）

© 2026 FilmEdu AI / 本資料はAIを活用して作成しています。授業でのご利用前に事実関係をご確認ください。専門家による監修ではありません。授業での使用可否・場面選択・学年の適否は担当教員の判断によります。作品の著作権は各権利者に帰属します。授業での上映には適切な権利処理（教育機関向けライセンス等）が必要になる場合があります。